

平成 29 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	キャリア教育の推進を通して各学部の教育内容・方法を見直し、系統性・一貫性のある教育課程を編成し、授業改善に取り組む。	①本校としてのキャリア教育の考え方をさらに浸透させながら、学部間・部門間で連携して授業実践・授業研究・授業改善に取り組む。 ②新学習指導要領を踏まえながら系統性・一貫性のある教育課程編成に向け検討を進める。	①各学部での研究及びアシストミーティングの実施・ICT機器の活用・学習環境の工夫(ユニバーサルデザイン)に日々取り組みながら授業研究・授業改善を進める。 ②教育課程検討会議を設置・開催し、新学習指導要も踏まえた教育課程のあり方について検討する。	①キャリア教育の考え方がさらに浸透し、授業研究・改善が進んだか。(教職員対象アンケートによる肯定的評価80%以上)。 ②新学習指導要領を踏まえ、系統性・一貫性のある教育課程の編成に向け具体的な方向性が示されたか。					
2 児童生徒 指導・支援	児童・生徒一人ひとりが健康で安全に、かつ、安心して教育活動に取り組めるよう専門性の高い指導を行うとともに校内指導体制を整備する。	①「校内コーディネーター」を核とした学部・部門内での相談・支援の充実を図る。 ②ヒヤリハットの集約・共有に引き続き取り組むとともに、対応策についても確実に実施し、児童・生徒が安全に安心して学校生活が送れるようにする	①各学部に「学部コーディネーター」を置き、PT・OT等と連携しながら「校内相談シート」でニーズの把握やアセスメント・ケース会議に取り組む。 ②ヒヤリハットの集約・共有の取組意義を確認し、朝の打合せ等において速やかに全教職員でヒヤリハット事例を共有し、対応策を確認する。	①「学部コーディネーター」を核に、各学部内での相談・支援が充実したか(教職員・保護者対象のアンケートによる肯定的評価80%以上)。 ②ヒヤリハットの報告書が昨年度の件数(80件)を上回ったか。また、対応策を確認し実施できたか(教職員対象のアンケートによる肯定的評価80%以上)。					
3 進路指導・支援	児童・生徒一人ひとりが卒業後に地域社会で自分らしく暮らせるよう、個々のライフキャリア・ワークキャリアを見据えた進路指導・支援を行う。	①小学部段階から保護者向けの進路学習会等を計画・実施し、進路支援に関する関心・理解を高める。 ②キャリア教育の視点を踏まえて、作業学習・職業のあり方について見直しに取り組む改善を図る。	①小学部、中学部、高等部でそれぞれの段階での進路・支援の研修会を計画・実施する。 ②本校・分教室ともに他校の取組や工夫について情報収集を行い、改善案を検討し、試行する。	①進路学習会を実施し、参加した保護者の関心度・理解度が高まったか(アンケートの肯定的評価80%以上)。 ②作業学習・職業のあり方について見直し、改善が進んだか(教職員・生徒対象アンケートの肯定的評価80%以上)。					
4 地域等との協働	地域のセンター的機能の充実を図るとともに、地域との交流の機会を積極的に設定し、交流を深めることを通じて共生社会の具現化に貢献する。	①教育相談コーディネーターを核に校内の人材を活用しながら学校コンサルテーションを充実させる。 ②井田小・住吉高に加え中学校との交流について検討・実施につなげるとともに、ポッチャを中心にパラスポーツを通じて地域の方との交流の機会を増やす。	①地域の小学校等へ出向く際に、各学部所属の教員も同行し学校コンサルテーションを行う。 ②学校間交流及びパラスポーツ推進について、それぞれプロジェクトチームを中心に、各学部・部門と意見交換しながら進める。	①校内の人材を活用しながら学校コンサルテーションを実施できたか(学部所属教員1回以上実施)。 ②学校間交流及びパラスポーツ推進を通じた地域との交流が計画・実施できたか(教職員・生徒・地域対象アンケートの肯定的評価80%以上)。					
5 学校管理 学校運営	専門性の高い人材の育成と保護者や地域から信頼・信用されるよう開かれた風通しの良い学校づくりを行う。	①教職員の専門性を高めるための研修体系について整理し、「中原スタンダード」を策定する。 ②個人情報・文書取扱いに係る不祥事をなくす。 ③近隣関係機関や保護者等と連携しながら実践的な防災教育・訓練を進める。	①学部長・GL会議を中心に本校の研修計画・内容を精査し、体系化に取り組む。 ②個人情報・文書取扱いのルール徹底とヒヤリハット事例の集約・共有を行う。 ③DIGや非常食喫食訓練・非通知のシェイクアウト等、実際を想定した防災教育・訓練を近隣関係機関や保護者の参加・見学も含め実施できるよう計画する。	①「中原スタンダード」として研修体系を整理できたか。 ②個人情報・文書取扱いに係る不祥事がなかったか。 ③実際を想定した防災教育・訓練を実施できたか(教職員・保護者・生徒対象アンケートの肯定的評価80%以上)。					